

**2月28日(火)**

**先生紹介、授業紹介**

**日本史Bの授業 担当:渡邊 雅紀 先生**

2月28日(火)、研究授業を実施しました。

対象の授業は選択の日本史Bで、担当は渡邊雅紀先生です。渡邊先生は令和3年4月に東京都に新規採用され、現在の校務分掌は教務部で、部活動はサッカー部と福祉・ボランティア部の顧問をしています。土曜講習や夏期講習でも日本史の講座を開講して、大学受験対応の授業を行うなど、意欲的に日々の業務に取り組んでいます。

この日の授業は「なぜ東日本では金貨が、西日本では銀貨が使われていたのか」をテーマに、いろいろな資料をもとにして、江戸時代の貨幣制度について時代背景と結び付けながら考えさせることを目標として取り組ませていました。日本史Bの授業ですので、授業のペースは速めでしたが、生徒たちはテーマに沿って考えたり発言したりしながら楽しそうに授業を受けていました。



<渡邊先生にインタビュー>

Q 今回の授業で生徒たちに理解してほしいことは何ですか？

今回の授業では、江戸時代の貨幣制度を中心に、両替商が誕生した背景や江戸と大坂の特徴の違い、なぜ異なる貨幣が流通されていたのかを資料を基に考える授業を行いました。授業のなかでは、「銀座」の地名の由来や両替商がこの後の時代、どのように変化していったか等の説明を行いました。生徒の皆さんには、歴史の出来事を遠い過去のことではなく、今と関連しているという点について理解してほしいと思っています。

Q 日頃の授業で大切にしていることは何ですか？

大切にしていることは、様々な問題について、考える力を養っていくことです。過去の出来事について、断片的に理解するのではなく、様々な視点を用いて思考することで、その出来事の本質がみえてきます。昨今の、多様化・複雑化している社会問題や身近な問題に対応していくために、日本史の授業の中で生徒の皆さんに様々なことを考えさせていきたいと思っています。

Q 葛総生に一言お願いします

予測困難な世の中を生きるためには、社会を理解し、考える力が重要になります。これからも一緒に楽しく学んでいきましょう！

土曜講習で授業をする渡邊先生

